

# ある少年の正月の日記

小川未明

青空文庫



がつついたち  
一月一日

学校から帰ると、お父さんが、「今年から、おまえが、年始におまわりなさい。」といつて、お父さんの名刺を四枚お渡しなされた。そうだ、僕は、十二になったのだ。十二になると、お父さんのお代わりをするのか、知らないけれど、急に、自分でも大人になったような気がする。お母さんから、あいさつのしかたをならつて、まずお隣からはじめることにして、出かけた。

がつつつか  
一月二日

たくさんの年賀状の中に、僕にきたのが二枚あった。川田と西山からだ。学校で、いちばん親しい二人なのだ。なぜ、僕も早く書いて出さなかつたらう。もらつてから、出すのでは、なんだか冷淡のような気がする。いつそ、二人のところへ訪ねてゆこうかしらんと考えたが、お正月は、めいわくだらうと思つてやめた。二枚とも、「遊びにきたまえ。」と、書いて出した。

がつつつか  
一月三日

お隣の勇ちゃんが出て、寒ぶなを釣りにいかないかと誘つた。勇ちゃんは、中学の

三年生だ。去年の暮れ、釣り堀へいったときに、おじいさんが、「新年は、三が日の間懸賞つきで、寒ぶなをたくさんいれますよ。」と、いったからだろう。僕、新年早々、殺生するのはいやだといったら、勇ちゃんもゆくのをよして、二人で、ボールを投げて遊んだ。

一月四日

昼ごろ、カチ、カチ、という、ひょうし木の音がきこえる。今年から学校へゆく弟が、「あいつはせつかちだから、おもしろい！ やあやあ、コテツが、泣きおるわ。いま血をすわせてやるぞ……。」と、紙芝居の、チャンバラの手まねをして駆けだす。僕は、悲観してしまった。

一月五日

姉さんが、カルメ焼きを造るといって、火を落として、新しい畳の上に、大きな焼け穴をあけた。そして、お母さんにしかられた。いつも、僕たちが、畳をよごすといつて、しかられるので、ちよつと痛快に感じた。

一月六日

外で、たこのうなり声がする。窓を開けると、あかるく日が射し込む。絹糸よりも細

いくもの糸いとが、へやの中なかにかかつて光ひかっている。へやがあたたかなので、目めにはいらな  
 が、冬ふゆもこうしてごく小ちいさなくもが、活かつ動どうしているのを知しった。

一月七日  
がつなのか

明日あすから、学が校っこうだ。また、予よ習しゅうもはじまる。大おおいにしつかりやろう。橋はし本もと先せん生せい  
 は、僕ぼくたちのために、いつもおそくまで残のこっていてくださる。あ、先せん生せいに、年ねん賀が状じょうを  
 あげるのを忘わすれた。しかし僕ぼくは、ありがたく思おもっている。あした、お目めにかかつて、おめ  
 でどうをいおう。今こん夜や、これから、なにをして遊あそぼうかな。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 8」講談社

1977（昭和52）年6月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第6刷発行

親本：「青空の下の原っぱ」六文館

1932（昭和7）年3月

初出：「朝日新聞」

1932（昭和7）年1月3日

※表題は底本では、「ある少年『しょうねん』の正月『しょうがつ』の日記『につき』」  
となっております。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：飛竜

2017年12月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



# ある少年の正月の日記

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>